

慶進高等学校の「今」をつたえる

The Keishin Times



08

あなたと私をつないでくれる場所 それが慶進

「スマホ元年」と呼ばれた昨年。2年前にはスマホと言われてもピンと来なかったのですが、今やスマホと言うと誰にでも通じます。世の中の流れの速さを感じる間もなく、私の周りもスマホで溢れていました。今なお従来型の、傷だらけの携帯を持つ私は、少し世の中に取り残されてしまった気さえ感じてしま

います。グローバル社会という名の通り、私たちは世界中どこにいてもつながることができるのです。コミュニケーションの希薄化など、時にネガティブな話題をもつて語られますが、私たちが本物の「絆」で繋いでくれることもあります。

「絆」。東日本震災からの復興へ向け、東北、日本、そして世界中が1つとなり取り組んでいった中、2011年の漢字に選ばれた言葉です。電話回線、メール回線などがパンク状態、家族の安全確認の出来ない不安が大きかった中でSNSやツイッターが活躍したといえます。ネット上でつながれ



VOL.8 TOPICS

- 02 慶進祭
- 03 慶進祭
- 04 部活動～受け継がれる思い
- 05 慶進の先生
- 06 慶進の小窓

慶進高等学校

〒755-0035
山口県宇部市西琴芝2丁目12-18
☎ 0836-34-1111 ☎ 0836-21-7228
ks@keishin-ug.com

た人と人とのつながりが多い被災者に安心を与えたのです。そこには、遠くにいなくても感じられる本当の「絆」があったはず。復興支援のため、世界中から集まった方々、家族の無事を祈る方々、苦難の中でも助け合い強

互いに支え合い、協力し、時にはぶつかり合う中で育まれてきた「絆」、慶進の伝統の中で受け継がれてきた先輩から後輩へとつながる「絆」、先生と生徒の間に生まれる信頼という「絆」……

一人では困難なことも、皆で1つになれば成し遂げることができる。この慶進にもそのような「絆」が溢れています。生徒会が中心となり作り上げた慶進祭。「トライアングル」というテーマのもと、慶進生全体が1つになった慶進祭に私は強い「絆」を感じることができました。

く生きた方々、現地に赴くことのできなかつた私も、人々の「絆」に感動を覚えました。

響かせよう慶進の音色

慶進祭 2012.6.16sat & 17sun

皆で1つに…最高の1日を

私のクラスでは、ピタゴラスイッチを担任の二見先生の名前と掛け合わせて「ふたみんスイッチ」と名付けて展示をしました。私たち1年生にとっては、慶進祭は初めてで、何をするかとても迷いました。様々な意見が出る中で、ピタゴラスイッチに決定しました。内容をどうするかなかなか決まらなかったのですが、それは皆から様々な意見が出た結果であり、男女の壁を越えて1つのものを創り出したという気持ちで、私たちの団結力を高めてくれたと思います。

実際に作るというのは予想以上に難しく、失敗ばかりしてしまいました。本番が近付くにつれ、不安は募るばかりでしたが、初めて成功した時の喜びは、今までに味わったことがないものでした。なかなか成功ができませんいまま迎えた本番でしたが、たくさんの方が来てくださいました。とても温かい目で行く末を見守ってください、止まるたびに応援してくれ、締めくくりにクラッカーが鳴ると盛大な拍手に包まれました。教室から出る人皆が笑顔で、私たちの心が満たされていくようでした。



アドバンスコース1年 西坂加奈子

6月16日・17日に慶進祭が開催されました。今年は「TRIANGLE 響かせよう慶進の音色」をテーマに実行委員会を中心に創り上げました。



中高一貫コースの3コースがこれまで以上につながり合い、学校全体が1つになりました。そこには、準備をする際の真剣な顔、慶進祭を心の底から楽しむ慶進生の笑顔など様々な表情がありました。ご来校いただいた方にも慶進生の様々な表情を見ていただけたのではないのでしょうか。

ここでは、慶進祭を初めて創った1年生と、中心となって創った実行委員の皆さんの話を聞いてみました。ここにもまた、慶進生の「つながり」がたくさんありました。

皆で創り上げた慶進祭

私たちにとっては初めての慶進祭でしたが、とても自然に楽しむことができました。それは慶進生が中心となって企画をしたからだと思います。そんな中忘れてはいけないことは、慶進祭実行委員会の方々と裏側から支えてくださった先生方の存在です。実行委員会の方々は約1か月前からほぼ毎日、昼休みや放課後の時間を削ってこの慶進祭の準備をしてくださいました。慶進祭のスローガンである「トライアングル」の通り、学年、コースを問わず楽しめました。

先生方は、実行委員へ指示を出し、当日の時間調整など私たちが楽しめるよう補助をしてくださいました。先生方のおかげで進行や企画も問題なく進んだと思います。工事の関係で歩きづらかった中庭の移動や、各クラスの展示の準備での重たい荷物の移動等も補助をしていただき、安全に楽しむことができました。

多くの人の支えで今年の慶進祭はとても楽しいものとなりました。今年は1年生として初めての慶進祭でしたが、来年以降は先輩という立場として、私もできる限り多くのことを手伝って、来年もさらに良い慶進祭となればと思います。

グローバルコース1年 待水 翔太

クラスをつなげてくれた慶進祭

慶進祭では毎年オープニングでCMコンテストがあります。自分のクラスのアピールをするのですが、私たち1年はどのようなCMにするのか、話し合いのスタート直後につまずいてしまいました。何度か話し合ううちに、1人1人意見が出るようになり、内容を決めることができました。

決まるとすぐに、CMで使う小道具を作る準備に入り、放課後にクラス全員で最終下校の時間まで準備をしました。授業後で疲れているはずなのに、誰1人疲れた顔をせず、作業をしてくれ、皆で協力する中でクラスの絆が深まったと思います。

CMの撮影、製作も無事終わり、オープニングの投票の結果私たちアドバンス1年3組が優勝作品に選ばれ、大変うれしかったです。しかし、私にとっては、優勝したことよりも、皆で協力し、楽しく作業をし、クラス全員の共同作業で1つのものを完成させることができたことが、達成感につながり、思い出に残りました。2学期以降もクラスメイトとの時間を大切に、今以上に仲を深められたらと思います。

アドバンスコース1年 沖 香菜子

慶 進生の皆さん、今年の慶進祭は楽しんでいただけたでしょうか。今年はアドバンスコース、グローバルコース、中高一貫コースの壁を少しでも無くそうと、様々な工夫をしました。慶進祭を機に、違うコースの友達ができた、などと思ってくれる人が1人でも多くいれぱうれしく思います。

私はオープニング、一般公開、エンディングのMCをさせていただきましたが、正直非常に大変な仕事でした。何をすれば皆が楽しんでくれるのか、何をすれば皆の気持ちを1つにできるのか、共にMCをした竹田さん、森本君と懸命に考えました。3人とも他の仕事もあり、打ち合わせを本格的に始めたのは慶進祭まであと2、3週間前になってようやくでした。そこから案を出し合い、やっと完成したのが慶進祭でのオープニングです。オープニングでは皆さんのたくさんの笑顔が見れました。終わった後に多くの人に「MC良かったよ」、「今まで見たオープニングで1番面白かった」などの声を頂きとても嬉しかったです。

オープニングが盛り上がったのは、慶進生皆のおかげだと思います。私には最も心に残っている場面があります。それはGⅡ年の山西君が有志で行った瓦割りで、瓦を割った瞬間です。あの瞬間は、間違いなくアドバンスコース、グローバルコース、中高一貫コースの全員が一体となっていました。

生徒会活動を通して、私自身とても成長できたと思います。GⅢ年の女子が私1人だったのは寂しかったですが、他コース、他学年の皆と共に、たくさんの貴重な体験ができて本当に幸せに思っています。先生方、部活生の皆さん、そして慶進生の皆さん、ご協力ありがとうございました。 松本 瑞希さん(GⅢ)

私 は慶進祭で主にお祭り広場を担当しました。お祭り広場は去年から生徒会主体で企画、運営するようになり、今年はたくさんのことに挑戦しました。店舗ごとに工夫を凝らし、1番良かったお店を決める「KS-1グランプリ」という新しい企画では、様々な条件があり、工夫が難しい中でも各クラスが積極的に取り組んでくれました。また、東日本大震災の興業支援ブースでは、実行委員同士が協力し合い、サッカー部の呼びかけもあり、商品をすべて完売することができました。今年は欲張りすぎなくらい多くの取り組みをし、私自身も悩んで立ち止まったこともありましたが、無事に終了できたのは皆のおかげだと思います。お祭り広場の設営や片づけの時に、協力してくださる部活生やその他慶進生が素早く動いてくれたことも成功につながり、慶進全体の強いつながりを感じました。

私は当日のオープニング、エンディングの照明係を担当させていただきました。3階から見ていると必死にステージを成功させようと頑張っている実行委員の姿が見られました。実行委員だけでなく慶進生の皆が一丸となって盛り上がっている様子があり、そこには確かに「トライアングル」が存在しました。

私は慶進祭での様々な経験を通して、本当に充実した時間を過ごすことができました。大変なことや、正直面倒に思えたこともありましたが、どんなアクシデントがあっても当日を皆で乗り越えることができたことが、将来の自分の糧になったと思います。これからも人とのつながりを大切に、色々なことに挑戦していければと思います。 百生あかねさん(中高Ⅳ)

TRIANGLE

実行委員を中心に企画した慶進祭。その実行委員の中心的な役割を果たした実行委員長の重村さん、オープニングで司会を務めた松本さん、お祭り広場を担当した百生さんに慶進祭に対する思いを聞きました。

私 は、今年の慶進祭に実行委員長として企画・運営をする立場で参加しました。「やりたいこと」と「できること」には当然差があり、なかなか思い通りにはいかないというのが現実でした。そのことで実行委員と衝突したことも何度もありました。そのたびに、自分の気持ちや考えを相手にうまく伝えられないもどかしさを感じていました。また、やらなければならないことが毎日山のようにある中で、それが溜まっていけばいくほど、自分の要領の悪さが嫌になるばかりでした。

そんな時、友達や先生方から「慶進祭を楽しみにしているけど、無理はするな」という言葉をもらい、プレッシャーを感じつつも、自分がやるしかないという思いになりました。

準備期間はあっという間に過ぎ去り、当日を迎えました。当日も非常に忙しく、走り回っているうちに、気づけばエンディングを迎えていました。「笑顔が溢れる慶進祭」にしたいと思い続け準備をしていましたが、そこにはたくさんの笑顔がありました。慶進生皆の笑顔を見ると最後のあいさつでは、涙が止まりませんでした。

私1人では難しいことも、69人の実行委員をはじめとする、988人の慶進生と、それを見守って下さった先生方のおかげで達成することができました。この仕事を通して、周囲に対する感謝の気持ちの大切さをより感じるできるようになりました。実行委員長をさせていただき本当にありがとうございました。

来年の慶進祭が今年の慶進祭より素晴らしいものとなるのは何か悔しい気もしますが、今年実行委員をしてくれた皆さんの姿を思い返すと、簡単に越えられてしまうような気がします。1、2年生の皆さんのパワーアップに期待しています。 重村 果歩さん(AⅢ)



▲左から百生さん、重村さん、松本さん

女子ソフトテニス部 野村 菜摘さん(GⅢ)

女子ソフトテニス部は昔から個人・団体共にインターハイ出場をする部活で、入部した時は勉強と部活の両立ができるかとても不安でしたが、私が3年間続けてこれたのは一緒に頑張ってきた部員に支えられてきたからでした。



1年生の時は先輩に少しでも追い付こうと必死でした。2年生の時は一番大事な大会の前に故障してしまい、レギュラーとしてユニフォームを着ることのできない悔しさを知りました。その後キャプテンとなり、部をまとめることの難しさを学びました。それぞれのペアの協力がとても大切なので、苦勞をしたこともありましたが、部員とよくコミュニケーションをとり「先輩と後輩」の壁を少しでも無くせるよう努め、先輩方が残して下さった伝統を繋げようと懸命に努力しました。

キャプテンとして十分な役割を果たせたかは分かりませんが、この部活で礼儀を学び、人との広い関わりを持つことができました。そして悩んだこともありましたが、キャプテンという立場で貴重な体験ができたことはとても良かったと思います。後輩たちにも様々な経験を、ソフトテニス部に入って良かったと思える高校生活を送ってほしいと思います。

野球部 松久 雅彦くん(GⅢ)

慶進高校野球部での経験は非常に大きなものでした。2年の時から夏の大会を経験させて頂き、エースとして登板したにもかかわらず、不甲斐ないピッチングで先輩方の夏を終わらせてしまいました。先輩方からは「来年は甲子園へ」という言葉を頂き、来年こそは絶対にやるぞという強い思いになりました。



▲左から松久くんと深野先生

新チームでは主将として1年間やってきました。キャプテンという立場は大きな責任があり、叱られることも多い1年間でした。苦しく辛い事も多かったですが、支えてくれたのは同じ3年生15名でした。入学した当初は19名だったのですが、今では私を含め16名となりました。しかし、辞めていった仲間も最後の夏は応援に来てくれました。最後の夏は非常に残念な結果に終わりましたが、楽しく、笑顔で戦うことができました。慶進生の応援はどここの高校にも負けない大声援で、本当に力になりました。応援に来てくれた皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。1、2年生の後輩のサポートにも非常にありがたかったです。

私には一番残念なことがあります。それは、3年末から監督となって頂いた深野先生を甲子園に連れて行ってあげられなかったことです。短い期間でしたが、一番叱られた自信があるほど叱られました。当時は苦しかったですが、私たちの弱点を的確に指摘してくださりました。チームのために懸命に指導してくださった深野先生を勝たせてあげられなかったことが、3年生一同、最も残念なことです。私たちの多くが進路先でも野球をする予定です。この慶進野球部の素晴らしさをそこでも証明したいと思います。

最後に、この2年半支えてくださった全ての方へ心から感謝します。ありがとうございました。後輩には、周囲の人への感謝の気持ちを力にし、指導して下さる方々を信じて日本一になってほしいです。頑張ってください!!

仲間と共に！ 後輩へ受け継がれる 慶進の伝統

慶進には日々努力を続けている様々な部活があります。女子バスケットボール部や女子ソフトテニス部は、今年もインターハイ出場を果たし、全国という大舞台で活躍しています。その強さの秘訣は慶進に受け継がれてきた、仲間との絆や伝統です。ここでは彼らの強い思いを少しでも感じていただければと思います。

From the Locker Room vol.6

感動!!女子バスケット インターハイ第5位に輝く

慶進生の一生懸命な顔を見ていると、様々な場面で感動を覚えます。この夏、私たちに大きな感動を与えてくれたのが、慶進高校女子バスケットボール部です。去年に引き続きインターハイ出場を果たした彼女たちですが、先日行われたインターハイでは見事第5位に入りました。彼女たちの試合を見ていると自然と声を出して応援したくなるのです。試合中の表情がそうさせるのですが、それだけではありません。彼女たちは日々の生活、学習への姿勢、その他全てに一生懸命なのです。普段は笑顔いっぱいの女子高生、しかしバスケットへのストイックさには目を見張るものがあります。時間を一時も無駄にせず、チーム全体で共に高い目標を持って取り組んでいます。村谷先生の厳しくも、愛のある指導のもとチームが1つとなって見せる彼女たちのプレーに感動を覚えずにはられません。慶進には彼女たちのようなパワーを持った生徒ばかりのはずです。“チーム慶進”のもとで熱意のある日々を送ってください。

サッカー部 本田 紘貴くん(AⅡ2)

私がサッカー部に入って大切だと思ったことは、先輩方とのつながりです。私は入部以来先輩方からプレーのことだけでなく、下級生がすべき部活の仕事、部の規則、敬語、あいさつや礼儀などを学びました。先輩方から学んだことは、自分自身の成長に確実につながっていると思います。サッカー部の先輩は優しく、面白く、時には厳しい尊敬できる先輩ばかりです。私も先輩となり、後輩達にそれらのことを教え、受け継がせていきたいです。そのような中で自分を成長させ、チーム全体に力をつけ、全国でも勝てるようなチームになりたいと思います。



◀野球応援の様子

KEISHIN Teachers Interview

今を一生懸命に! 熱い高校生活を!!

慶進の自慢の1つが熱い思いを持った先生方です。ベテランの頼りになる先生、的確な教科指導をしてくれる先生、部活に熱心な先生などなど。そんな中でも今日は、情熱あふれる若い先生3人にお話を頂きました。

先生方の高校時代はどんなものでしたか?

田口 バレー部に所属し部活を一生懸命やりました。部活を頑張った、勉強は時間を見つけてやっていました。

行事等はどうでしたか?

田口 文化祭のステージ発表で友達と2人デュエットで出ました。
二見 私はテニス一色でした。勉強は登下校のバスと寝る前に少ししかできませんでした。休日も練習試合や、試合ばかり



▲左から田口麗志先生(GI2担任)、二見彰彦先生(AI3担任)、秋穂実先生(GII3担任)

でした。

秋穂 僕は信じてもらえないかもしれませんが、勉強ばかりしていました。バレー部に所属し、他にはサッカーやバスケットをして遊んでいましたが、勉強が1番でした。

慶進生の印象はどうですか?

秋穂 明るく元気だと思います。

田口 あいさつをよくします。

二見 私はアドバンスコースの担任をしています。私の高校時代と違ってよく勉強をします。

職員室の雰囲気はどうですか?

田口 明るい先生も多くて、居心地がいいです。

新校舎になってどうですか?

秋穂 引っ越しが大変でした。この中で新校舎に入ったのは私のクラスだけですね。生徒は喜んでいました。

慶進祭はどうでしたか?

二見 私のクラスはCMで優勝することができたのですが、その準備で燃え

尽きた感がありました。CMは優勝することができて良かったです。

田口 普段控えめな生徒が一生懸命やっている姿などが見れました。

普段の授業や部活の様子はどうですか?

田口 基本的には授業へ向かう姿勢などは一生懸命で素晴らしいですね。時に眠そうな生徒もいます。

二見 ソフトテニス部男子は創部初の中国大会出場を果たしましたが、練習風景や日常生活などまだまだ頑張れるエネルギーを持っていると思います。

秋穂 私はバレー部の顧問ですが、コース間、そして先輩後輩の間も厳しくも、仲良くやっているようです。

高校時代に頑張っておいてほしいことは何かありますか?

秋穂 もっともっと夢中になってほしいですね。勉強も部活も行事も今しかできないことです。とことん追求してやっていくことが自分の成長につながると思います。

田口 秋穂先生はいつもバレー部で言っていますね。私も似ていますが、

秋穂先生はバレー大好き!とにかく熱い先生です。
田口先生はいつも生徒のことを気遣って声をかけてくれる先生です。(女子バレー部一同)



最後に、学校見学会で中学生に見てほしいことは何ですか?

秋穂 綺麗な校舎ですね。

田口 勉強をする環境としては非常に良いと思いますので、見てほしいですね。

二見 慶進生のあいさつや元気も見えてほしいです。秋穂 慶進の先輩たちの頑張っている姿は見えてほしいですね。

田口 あと先生も、慶進の熱い先生達をぜひ見て行ってほしいと思います。

慶進の小窓

Vol.7

この小窓を開ければ、常盤公園が見える。あの小窓を開ければ、第二グラウンドが見える。慶進にはそんな小窓がたくさんあります。でも、きつと慶進を見るための小窓もあるはず。そんな小窓を紹介するコーナーが、この「慶進の小窓」。第7回の「小窓」は、この7月に完成した「新4号館」です。これまで培ってきた慶進の伝統に新たな一ページが加わり、これから新しい慶進を作っていく舞台となるはずです。そんな「新4号館」について紹介をしようと思います。

慶進の新たな伝統と絆を創る
新4号館

1

1 明るく、開けたエントランスが生徒の皆さんが来るのを毎朝迎えます。“Go For It”の合言葉のもと何事にもチャレンジする慶進生を待っています。



2

2 3階～5階には計15教室があり、木目の床が落ち着きある温かい雰囲気を与えてくれます。大きな黒板を設置し学習には最適の環境で授業を受けることができます。



3

3 全面ガラス張りのコミュニケーションスペース。進学関連の資料を自由に閲覧でき、先生と生徒のふれあいの場でもあります。学習面や進路の相談があれば気軽にしてください。



4

4 中学校と高校の先生が一緒になり、広々とした空間の職員室。先生と生徒の距離が近いのも慶進の武器。新たな職員室はさらに明るく、温かい雰囲気、生徒の皆さんを待っています。



慶進生になりきろう!～今日だけ君も慶進生～

中学生の皆さん、ならびに保護者の皆さん、この度は慶進高等学校夏季学校見学会にお越しいただきありがとうございます。実際に来ていただいて、肌で感じてみた慶進高校はどうでしたか。授業やイベントなどは楽しんでいただけましたか。

今年も、夏季学校見学会は実行委員、部活生、教員一同が総力を上げ皆さんにより楽しんでいただけるものを作りました。今回の学校見学会のコンセプトは「慶進生になりきろう!! 今日だけ君も慶進生」でしたが、皆さんは慶進生になりきれましたか。今回、慶進生になりきれたという方も、そうでない方もいるかもしれませんが、慶進について知り、楽しんでいただければ嬉しく思います。秋にも学校見学会が行われるので、ぜひお越しください。秋の学校見学会では、夏以上のものをお見せできればと思いますので、期待しておいてください。本日は本当にありがとうございました。



学校見学会実行委員長 森本 貴公(AI)

秋季学校見学会
10/7(日)・10/20(土)
ぜひお越しください!



▲学校見学会実行委員会の皆さん